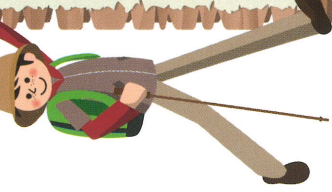


登城・散策の注意!

八講師城は大切な遺跡です。見学の際に石積みや土塁などの遺構を壊さないよう注意してください。地面を掘り起こしたり、火を使うこともご遠慮ください。



登城道は、山道です。トレッキングや軽登山の装備でお出かけください。



近年、ふもとの集落で野生動物の目撃情報が相次いでいます。危険ですので複数人での散策・登城をおすすめします。クマやシカ・イノシシにあわないよう、鈴・ラジオなど音の出るものを携帯し、人が山に入っていることを知らせるようにしてください。また、ヒル・ハチが出る可能性があります。ヒルは、肌の露出を少なくし、ヒル避けスプレーを足もと、首筋などに吹き付けるなどの対策を各自でお願いいたします。ハチは黒いものを攻撃する性質があります。また匂いに刺激され攻撃します。白色系の帽子をかぶり、香水など匂いの強いものは控えてください。

八講師城へのアクセス

【公共機関】 JR近江長岡駅から湖国バス梓河内線で梓河内バス停下車。

徒歩約2時間～2時間30分。

【自家用車】 国道21号線梓河内交差点から河内集落に入り、梓谷林道を約15分。林道に車を止め、そこから徒歩約10分。

発行元 米原市教育委員会 TEL.0749-55-4552 FAX.0749-55-4040

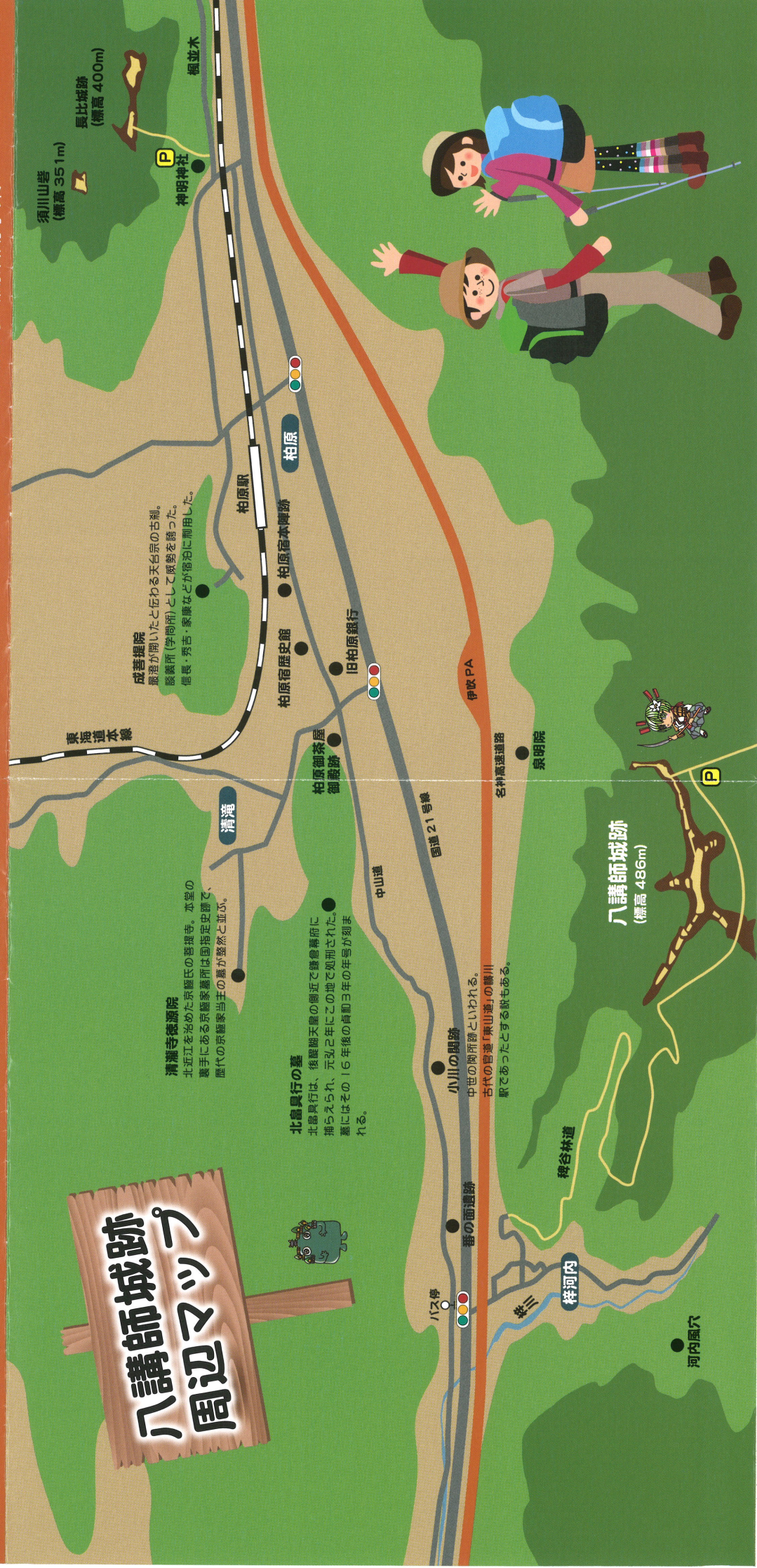
米原のお城に登ってみよう!!

八講師城

トレッキングマップ

主郭 八講師城の中心!

切岸 巨大な切岸を体験してみよう!



八講師城跡 周辺マップ

八講師城は、梓河内に所在する標高486mの八講師山に築かれた山城です。名前の示すとおり、地元では「八講寺」もしくは「八光寺」という寺院があったと伝わっています。いつごろから城郭に改修されたかはつきりわかりませんが、江戸時代の文献史料には、城主として京極九郎高敏、多賀豊後守高忠などの北近江の守護京極氏や有力家臣の名前が挙げられています。

標高486mという非常に高い位置に築かれたこの城郭は、連続する複数の曲輪で構成される連郭式の縄張り構造を持ち、中心部は方形を意識した三段の曲輪で構成されています。山頂部に位置する曲輪Ⅰが主郭とみられ、曲輪Ⅰから階段状に曲輪Ⅱ・Ⅲを配置しています。曲輪Ⅰの南西隅には櫓台状の遺構が設けられています。曲輪Ⅱ・Ⅲには石積みや石積みで両脇を固められている虎口などが設けられており、戦国末期に改修されたことがうかがえます。また曲輪Ⅲの北東隅には、石積みで固められた櫓台が設けられています。

中心部から5方向に尾根が派生しており、それぞれにもまた曲輪が配置されています。北方向に伸びる尾根には、非常に高低差のある急峻な切岸が設けられており、かなりの土木量が投入されて築かれたことがわかります。

八講師城は集落から隔離した非常に高い山に築かれており、かなりの土木量を投入して築かれた巨大な切岸を備え、中心部には石積みを用いるなど高度な城郭構造を持つことから、単なる在地の城とは考えにくく、大名クラスの勢力の出撃拠点もしくは領地への侵入を阻むための防衛拠点であったのではないかと考えられています。

八講師城の概要

虎口 城や曲輪の出入口。正面に土塁を設けたり、進入路を折り曲げるなどして、敵が攻めにくいよう様々な工夫がなされた。

縄張 曲輪・堀・虎口等の配置。どのような城にするか、縄を張って配置を決めたことからこの名がある。

枿形 虎口を守るために、虎口の内・または外に設けられた、土塁や石垣で囲んだ空間。

堀 防衛のために地面を掘った溝。尾根等を深く削り敵の移動をふせぐ「堀切」、斜面で左右の移動をさまたげるため上下方向に設ける「塹壕」、水平方向の「横堀」などがある。

土塁 土を盛り上げてつくった土手のこと。敵の侵入をふせぐ。

曲輪(郭) 土塁や石垣などで区切られた区画のこと。本丸、主郭、〇〇曲輪などとよばれる。

切岸 人工的に急な斜面をつくり、人が登りにくくしたものを。

お城の用語 きほんのき





主郭(曲輪Ⅰ)

主郭の中央に大きな岩があり、地元にはこの岩の下に寺院の釣り鐘と、その釣り鐘の下に黄金の鴉が埋められているという伝承があります。昔この黄金の鴉を掘り返そうとした人がいて、身内に不幸が起こったり、病氣になったりしたという逸話が残っています。
また、主郭の南西隅には岩盤を削ってつくられた櫓台状の遺構が残っています。



切岸

切岸とは人工的につくられた急斜面のことで、敵に登りにくい構造にしたものです。八講師城には非常に高低差のある急峻な切岸が設けられており、さらに堅堀など組み合わせることで防御性をより高めています。

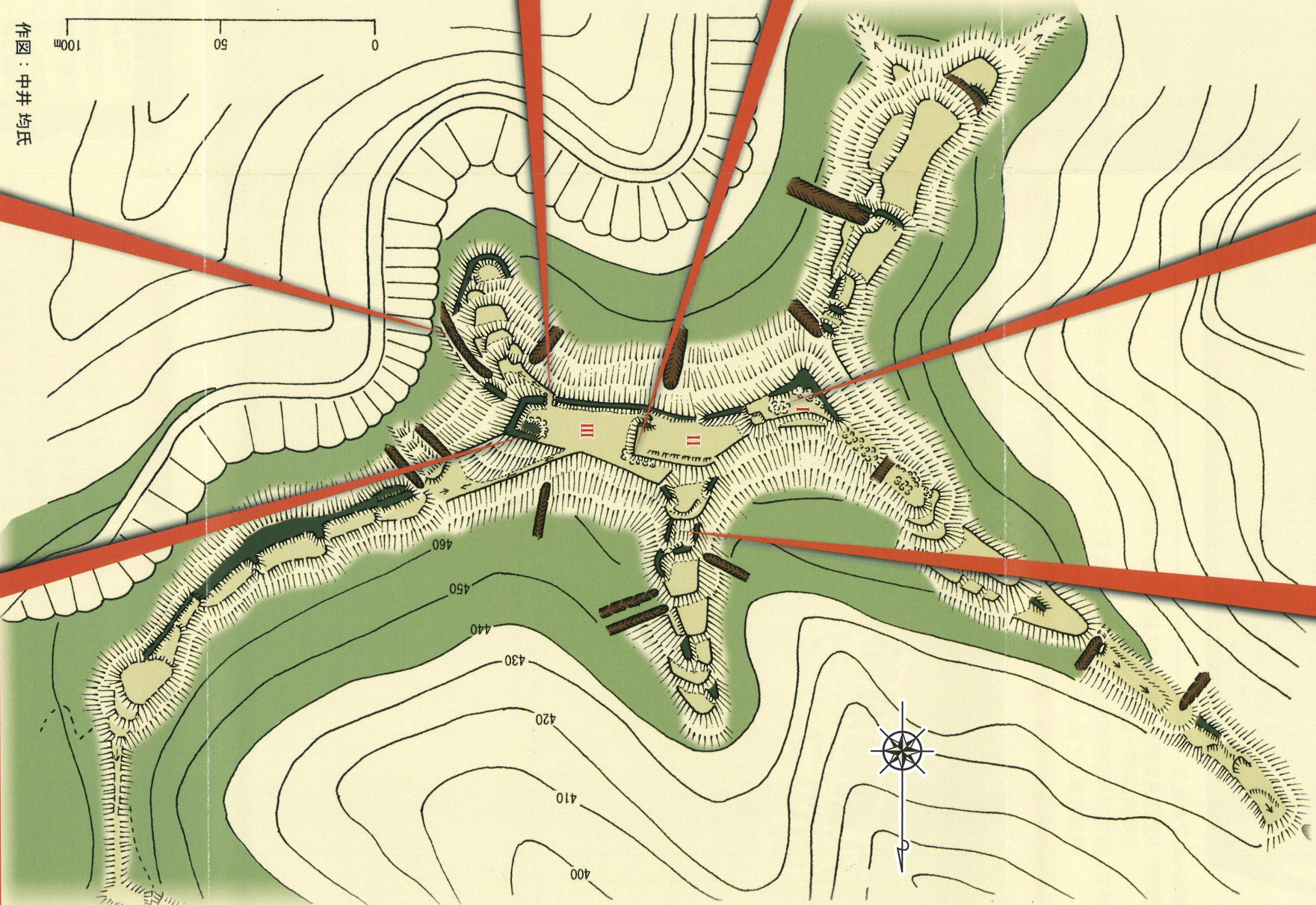
石積み

中世の石積み(石垣)は防衛強化のためだけではなく、曲輪自体の補強などにも用いられることが多く、八講師城においても、中心部の曲輪の法面の下に比較的大きな石が散乱していることから、この部分に石積みが築かれていたとみられます。石積みが備えられていることから、中心部の曲輪は戦国末期に改修されたと考えられています。



虎口

曲輪Ⅲの虎口に平入り虎口を採用していますが、虎口の両脇が石積みで固められていることから、主要な虎口であったと考えられています。虎口への進入路は直進ではなく、虎口手前で折れて進入させ、横矢がかかる仕組みになっています。



作図：中井均氏

八講師城のみどころ

八講師城は、河内集落の東に聳える八講師山(標高486m)に築かれた山城です。「八講師」の地名の由来、この場所にはもともと寺院(「八講寺」)、「八光寺」があったと言われています。



中心部の曲輪は、石積みや石積みで脇を固められている虎口などが設けられており、戦国末期に改修されたと考えられています。中心部から派生する5方向の尾根すべてに曲輪が設けられていることや、北方向に伸びる尾根に非常に高低差のある急峻な切岸が設けられていることなどから、かなりの土木量が投入されて築かれたことがわかります。

櫓台

櫓台とは防衛や物見といった目的のために城郭内に建てられた構造物で、石垣や土塁などの上に設け、攻撃や防衛に用いられています。八講師城では中心部の曲輪にその櫓の跡(櫓台)が残っています。



堅堀

堅堀とは、敵が斜面を横方向に移動するのを妨げるために、上下方向に地面を掘り下げた溝のことです。八講師城には何本もの堅堀が設けられています。

